

産地交付金目標達成状況チェックシート(R5年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度		R4年度		R5年度	
1	麦生産性向上助成	単収	kg/10a	目標	441	355	357	360	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	353	411	423		116	114	118	118	0
		作付面積	ha	目標	63.1	68.8	105.5	106.0	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	62.5	68.9	103.6		100	65	-	-	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)	
I	目標達成状況① (R4目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		<b>①達成(未達成)の要因</b> 作付面積については、輪作により麦からそばに作付変更したことから、面積が減少し目標未達成となったが、単収については、作付期間中は適温・適雨であったことから、単収が増加し目標達成となった。 <b>②目標の妥当性の検証</b> (目標値が妥当だったか) 作付面積については、輪作による作付変更のため目標達成とはならなかったが、今後の輪作体系を考えると今後面積増加は考えられる。単収については、目標達成している状況であるが例年になく天候に恵まれていたことから、翌年度以降も継続し状況を確認する必要がある。 (課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 課題については、排水対策を実施し、適切な施肥管理をすることで単収増加を狙っていたことから、課題と目標は整合していたと考えられる。	
II	目標達成状況② (R5目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成			
III	課題の有無	有※			<b>①課題</b> <b>②見直し内容</b>	
IV	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	<b>①具体的な理由</b> 近年、豪雨災害などの天候不順により収穫量の減少し、安定的な単収が見込めない状況である。令和4年度については、天候に恵まれた状況ではあったが、心土破碎の取組率が39%となっていることから翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、単収が維持できるように実施していく必要がある。 作付面積は、麦・大豆の国内生産量の需要拡大が求められていることから面積増加を見込み現状維持とし、天候不順単収増加を図るために翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、実施していく必要がある。	
【以下はIVで継続を選択した場合記入】						
V	目標値	現状維持	上げる	下げる		追加 (3年以内)
VI	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)		
VII	内容	現状維持	一部削除	一部追加		
VIII	具体的な要件	現状維持	一部削除	一部追加		
IX	単価	現状維持	上げる	下げる		

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R5年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度		R4年度		R5年度	
2	大豆生産性向上助成	単収	kg/10a	目標	229	237	209	210	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	236	120	212		51	57	101	101	0
		作付面積	ha	目標	97	93.9	64.4	66.0	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	103.3	93.2	63.7		99	141	99	97	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R4目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		①達成(未達成)の要因 作付面積については、輪作により大豆からそばに作付変更したことにより目標達成が出来なかった。単収については、作付期間中は適温・適雨であったことから、単収が増加し目標達成となった。 ②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 作付面積については、輪作による作付変更のため目標達成とはならなかったが、麦・大豆の国内生産量の需要拡大が求められていることから今後面積増加は考えられる。単収については、目標達成している状況であるが例年でない好天候となったことから排水対策等の状況を確認するためにも、翌年度以降も継続し状況を確認する必要がある。
II	目標達成状況② (R5目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 課題については、排水対策を実施し、適切な施肥管理をすることで単収増加を狙っていたことから、課題と目標は整合していたと考えられる。
III	課題の有無	有 <sup>※</sup>	無		①課題 近年、豪雨災害や干ばつなどの天候不順による収穫量の減少によって単収が増加していないことや、道内でも有数の豪雪地帯である当町においては茎疫病による廃耕が発生していることから、心土破碎や茎疫病防除の実施を強化していく必要がある。 ②見直し内容 JA、農業改良普及センターと連携を図りながら、現地研修会でより良い圃場管理ができるよう推進し、単収増加に向けて翌年度以降も引き続き実施していく。
IV	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	①具体的な理由 近年、豪雨災害などの天候不順により収穫量の減少し、安定的な単収が見込めない状況である。令和4年度については、天候に恵まれた状況ではあったが、心土破碎の取組率が26%となっていることから翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、単収が維持できるように実施していく必要がある。 作付面積は、麦・大豆の国内生産量の需要拡大が求められていることから面積増加を見込み現状維持とし、天候不順単収増加を図るために翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、実施していく必要がある。
【以下はIVで継続を選択した場合記入】					
V	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
VI	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VII	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加	
IX	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R5年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度		R4年度		R5年度	
3	そば生産性向上助成	単収	kg/10a	目標	85	86	66	67	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	58	44	85		51	66	129	127	0
		作付面積	ha	目標	255.0	254.2	239.3	240.0	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	254.6	254.3	241.8		100	106	101	101	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R4目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	①達成(未達成)の要因 作付面積については、麦からそばに作付変更したことから、面積が増加し目標達成となった。単収についても、天候に恵まれたことから単収が増加し、目標達成となった。 ②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 作付面積・単収ともに目標達成となったことから目標値については妥当であった。
II	目標達成状況② (R5目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 課題については、排水対策を実施し、適切な施肥管理をすることで単収増加を狙っていたことから、課題と目標は整合していたと考えられる。
III	課題の有無	有 <sup>※</sup>		無	①課題 ②見直し内容
IV	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	①具体的な理由 単収、作付面積ともに目標達成となっているが、令和4年度については天候に恵まれた状況ではあったことから単収については現状を維持し、作付面積についても、令和4年は健康上の理由でそばに転換した生産者がいたことから現状維持とする。 近年、豪雨災害などの天候不順により収穫量の減少し、安定的な単収が見込めない状況である。令和4年度については、天候に恵まれた状況ではあったが、心土破碎の取組率が72%となっていることから、翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、単収が維持できるように実施していく必要がある。
【以下はIVで継続を選択した場合記入】					
V	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
VI	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VII	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	具体的な要件	現状維持	一部削除	一部追加	
IX	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。



産地交付金目標達成状況チェックシート(R5年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度		R4年度		R5年度	
4	てん菜生産性向上助成	単収	kg/10a	目標	6,392	5,883	5,941	6,000	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	5,825	4,684	6,577		80	78	111	110	0
		作付面積	ha	目標	17.7	5.8	8.9	12.0	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	5.5	5.9	15.1		102	49	-	-	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R4目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	①達成(未達成)の要因 作付面積については、作付面積については目標達成したが、単収については、6月・7月が干ばつにより高温・少雨となったことから水分不足により適正播種はしたが発芽も遅れ生育不良となったため、単収が落ち込む結果となり未達成となった。 ②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 作付面積・単収ともに目標達成となったことから目標値については妥当であった。
II	目標達成状況② (R5目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 課題については、排水対策を実施し適切な施肥管理をすることで単収増加を狙っていたが、例年のない干ばつとなり病気などの発生の恐れがあることから途中で灌水も行えない状況だったため、適正な施肥管理の必要がある。そのため、単収が落ち込む結果となりましたが、翌年度も引き続き実施していく必要がある。
III	課題の有無	有 <sup>※</sup>		無	①課題 近年、豪雨災害や干ばつなどの天候不順による収穫量の減少しており、心土の排水性や通気性、保水性を改善するため心土改良の実施が必要がある。 ②見直し内容 JA、農業改良普及センターと連携を図りながら、現地研修会でより良い圃場管理ができるよう推進し、単収増加に向けて、翌年度以降も引き続き実施していく。
IV	用途そのもの (I～IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	①具体的な理由 近年、豪雨災害などの天候不順により収穫量の減少し、安定的な単収が見込めない状況である。令和4年度については天候に恵まれた状況ではあったが、心土破碎の取組率が29%となっていることから、翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、単収が維持できるように実施していく必要がある。 作付面積は、全国的にてん菜の需要が減少している状況であり、単収についても令和4年度については例年のない好天であったことから現状維持とする。
【以下はIVで継続を選択した場合記入】					
V	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
VI	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VII	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	具体的な要件	現状維持	一部削除	一部追加	
IX	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R5年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度		R4年度		R5年度	
5	小豆生産性向上助成	単収	kg/10a	目標	221	188	199	210	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	177	12	223		6	6	112	106	0
		作付面積	ha	目標	2.0	2.8	2.8	2.8	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	2.0	2.6	1.3		93	93	46	46	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R4目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		①達成(未達成)の要因 作付面積については、小豆全体ではR4と比較すると4ha以上作付面積が増加しているが、輪作のため畑での作付けとなったため目標達成が出来なかった。単収については作付期間中は適温・適雨であったことから、単収が増加し目標達成となった。 ②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 作付面積については、輪作のため畑での作付けとなり目標達成とはならなかったが、今後の輪作体系を考えると今後面積増加は考えられる。単収については、目標達成している状況であるが例年でない好天候となったことから、排水対策等の状況を確認するためにも翌年度以降も継続し状況を確認する必要がある。
II	目標達成状況② (R5目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 課題については、排水対策を実施し、適切な施肥管理をすることで単収増加を狙っていたことから、課題と目標は整合していたと考えられる。
III	課題の有無	有 <sup>※</sup>	無		①課題 近年、豪雨災害や干ばつなどの天候不順による収穫量の減少によって単収が増加していないことから、心土破碎や病害虫予防情報に基づく防除作業の実施する必要がある。 ②見直し内容 JA、農業改良普及センターと連携を図りながら、現地研修会でより良い圃場管理ができるよう推進し、単収増加に向けて、翌年度以降も引き続き実施していく。
IV	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	①具体的な理由 近年、豪雨災害などの天候不順により収穫量の減少し、安定的な単収が見込めない状況である。令和4年度については天候に恵まれた状況ではあったが、明暗渠の取組率が0%となっていることから、翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、単収が維持できるように実施していく必要がある。
【以下はIVで継続を選択した場合記入】					
V	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
VI	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VII	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加	
IX	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R5年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度		R4年度		R5年度	
6	地域振興作物助成 (加工用トマト、プロックリー、花き、花木)	作付面積	ha	目標	26.7	20.6	25.4	26.0	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	16.6	19.5	23.2		95	75	91	89	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R4目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成	未達成	①達成(未達成)の要因 令和4年と比較し作付面積は増加しているが、コロナ禍による雇用が出来なく労働力不足により目標作付面積までの増加が図れなかった。 ②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 加工用トマトについては、作付面積拡大に向け生産者に作付を依頼している。目標については、トマトジュースの製造のため作付面積拡大としていることから、目標値については妥当であった。
II	目標達成状況② (R5目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成	未達成	(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 地域農業の経営安定化を推進するためには、収益の向上を図っていく必要があり、産地の強化と複合経営の推進を図る必要があることから課題と目標についてが整合していたと考える。
III	課題の有無	有 <sup>※</sup>	無	無	①課題 高齢化により離農者が出てきている状況ではあるが加工用トマトについては、本町の特産品であるトマトジュースの原料であることから、作付面積拡大が必要である。 ②見直し内容 本町の特産品であるトマトジュースの原料として、栽培している加工用トマトの作付面積の拡大は必要であり、令和4年度に北海道加工用トマト拡大協議会を設立し作付の推進している状況である。また、原料を確保するため、各種会議・広報等で生産者や家庭菜園での作付を依頼し、作付面積の拡大を目指し引き続き産地の強化と複合経営の推進を図る。
IV	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	①具体的な理由 加工用トマトについては、本町の特産品であるトマトジュースの原料であり、主食用米の需要が減少している中においては、収益力のある作物への転換は必要であることから、翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、新たな目標に向けて実施していく必要がある。
【以下はIVで継続を選択した場合記入】					
V	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
VI	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VII	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加	
IX	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。



産地交付金目標達成状況チェックシート(R5年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度		R4年度		R5年度	
7	地域振興作物助成 (メロン、ミニトマト)	作付面積	ha	目標	1.8	1.3	1.4	1.5	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	0.9	0.9	0.9		69	60	64	60	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R4目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		<p>①達成(未達成)の要因 令和2年から作付面積は維持している状況であるが、労働力が必要となることから他の作物からの作付変更結びつかなかったため、目標が未達成となっている。</p> <p>②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 高齢化により離農者が出てきている状況ではあるが、主食用米の需要が減少する中においては高収益作物の作付面積拡大は必要である。メロン、ミニトマトについては、花きと並び大きな収益作物であることから目標値については妥当であった。</p> <p>(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 地域農業の経営安定化を推進するためには、収益の向上を図っていく必要があり、産地の強化と複合経営の推進を図る必要があることから課題と目標についてが整合していたと考える。</p> <p>①課題 高齢化により離農者が出てきている状況ではあるが、主食用米の需要が減少する中においては高収益作物の作付面積拡大は必要である。メロン、ミニトマトについては、花きと並び高収益作物であることから作付面積拡大が必要である。</p> <p>②見直し内容 主食用米の需要が減少している中においては、収益力のある作物への転換は必要であり、地域農業の経営安定化を推進するために引き続き、産地の強化と複合経営の推進を図る。</p> <p>①具体的な理由 主食用米の需要がさらに減少している中においては、収益力のある作物への転換は必要であることから、翌年度以降も具体的要件を引き続き継承し、実施していく必要がある。</p>
II	目標達成状況② (R5目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		
III	課題の有無	有 <sup>※</sup>		無	
IV	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	
【以下はIVで継続を選択した場合記入】					
V	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
VI	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VII	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加	
IX	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R5年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度		R4年度		R5年度	
8	地域振興作物助成 (その他作物)	作付面積	ha	目標	3.5	2.3	2.5	3.0	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
				実績	2.2	1.9	2.5		83	63	100	83	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R4目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	①達成(未達成)の要因 加工用トマトへの作物変更があったことから、目標未達成となった。 ②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 目標達成となったことから目標値については妥当であった。
II	目標達成状況② (R5目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 地域農業の経営安定化を推進するためには、収益の向上を図っていく必要があり、産地の強化と複合経営の推進を図る必要があることから課題と目標については整合していたと考える。
III	課題の有無	有 <sup>※</sup>		無	①課題 高齢化により離農者が出てきている状況ではあるが、主食用米の需要が減少する中においては高収益作物の作付面積拡大は必要であり、法人による加工用作物の作付は農業所得向上を図るため今後においても作付拡大が必要である。 ②見直し内容 主食用米の需要がさらに減少している中においては、収益力のある作物への転換は必要であり、地域農業の経営安定化を推進するために引き続き、産地の強化と複合経営の推進を図る必要がある。
IV	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	①具体的な理由 主食用米の需要がさらに減少している中においては、収益力のある作物への転換は必要であることから、翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、実施していく必要がある。
【以下はIVで継続を選択した場合記入】					
V	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
VI	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VII	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加	
IX	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。



産地交付金目標達成状況チェックシート(R5年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況						
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度		R4年度		R5年度		
				目標	255.0	254.2	239.3	240.0	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)	
9	そば作付助成	作付面積	ha	実績	254.6	254.3	241.8			100	106	101	101	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R4目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	<p>①達成(未達成)の要因 作付面積については、2019実績からは増加したが、輪作により麦からそば・大豆に作付変更したことにより目標達成が出来なかった。単収については、6月上旬及び7月中旬以降に高温・少雨となったことから赤さび病が散見されたことと、茎数が多く過繁茂になっている圃場があり、北空知では発生していないとされていたM.ニバーレによる葉枯症状が発生したことから、収穫量が減少し、品質の低下を招いたため、単収が落ち込む結果となり、未達成となってしまった。</p> <p>②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 転作作物としては比較的少ない労働力で生産できることから、主食用米の需要が減少する中においては畑作物の作付面積は増加していくため妥当と考える。</p> <p>(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 転作作物としては比較的少ない労働力で生産できることから高齢化に伴い労働力が減少しても、面積が増加していくことが想定されるため、そばの作付け面積の増加目標は適正と考える。</p> <p>①課題</p> <p>②見直し内容</p> <p>①具体的な理由 作付面積は、令和4年は健康上の理由でそばに転換した生産者がいたことから現状維持とし、転作作物としては比較的少ない労働力で生産できることから、翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し実施していく必要がある。</p>
II	目標達成状況② (R5目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	
III	課題の有無	有 <sup>※</sup>		無	
IV	用途そのもの (I～IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	
【以下はIVで継続を選択した場合記入】					
V	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
VI	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VII	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加	
IX	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R5年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況						
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度		R4年度		R5年度		
				目標	実績	目標	実績	目標	実績	達成度(%) (R3目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R4目標比)	進捗度(%) (R5目標比)	達成度(%) (R5目標比)
10	複数年契約助成	複数年契約取組面積	ha	1.74	1.74	1.74		99	-	99	-	-	-	
			実績	1.74	1.72	1.72		99	-	99	-	-	-	
		複数年契約取組数量	t	10.38	10.38	10.38		101	-	106	-	-	-	
			実績	10.50	10.49	11.00		101	-	106	-	-	-	
		作付面積	ha	1.74	85.70	1.74		125	-	99	-	-	-	
			実績	1.74	107.06	1.72		125	-	99	-	-	-	
		作付数量	t	10.38	515.05	10.38		125	-	106	-	-	-	
			実績	10.50	643.67	11.00		125	-	106	-	-	-	

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)	
I	目標達成状況① (R4目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	①達成(未達成)の要因 複数年契約で実施していることから、目標達成している。 ②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 複数年契約で実施していることから、目標値については妥当であるとする。  (課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 国や道が別途定める取扱い内容に準じて実施している。	
II	目標達成状況② (R5目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成		
III	課題の有無	有 <sup>※</sup>		無	①課題 ②見直し内容	
IV	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	①具体的な理由 令和4年度で目標を達成したことから、廃止する。	
【以下はIVで継続を選択した場合記入】						
V	目標値	現状維持	上げる	下げる		追加 (3年以内)
VI	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)		
VII	内容	現状維持	一部削除	一部追加		
VIII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加		
IX	単価	現状維持	上げる	下げる		

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。